

公開講演会

廃墟における主権

ペルー・アンデス内戦後の
死をめぐる権力、統治性、民衆

Sovereignty in Ruins:
Necropower, Necro-governmentality, and
the Figure of the People in Peru's post-war Andes

講師：イサイアス・ロハス・ペレス
(ラトガーズ大学)

講師紹介：Isaias Rojas-Perez

約7万人の死者・行方不明者を生んだ南米ペルー内戦(1980-2000)後の秘密墓地の発掘をめぐる政治性と、行方不明となった家族を探す先住民系の母たちの関係を調査研究。近著 *Mourning Remains: State Atrocity, Exhumations, and Governing the Disappeared in Peru's Postwar Andes* (Stanford University Press, 2017) は、2018年に 全米文化人類学会(AAA) the Association for Political and Legal Anthropology (APLA) 図書賞、および全米ラテンアメリカ学会 (LASA) ペルーセクション、フローラ・トリスタン賞をダブル受賞。



コメンテーター：

松野明久（大阪大学）・大串和雄（東京大学）・細谷広美（成蹊大学）

2019年3月18日(月) 14:00-17:15

会場：早稲田大学（早稲田キャンパス）7号館212教室

使用言語：スペイン語（日本語通訳あり）・英語・日本語

主催：科研費基盤研究（B）

「ラテンアメリカにおける政治的カストロフ後の日常的位相」

共催：早稲田ラテンアメリカ研究所

問い合わせ：石田智恵（早稲田大学法学学術院）

mail ishidachie@waseda.jp

写真：細谷広美

